

# 令和7年度 第3回小名浜港周辺エリアにおける防災・交通対策協議会

## 議事要旨

### 1. 日時

令和8年1月30日（金）15：00～17：00

### 2. 場所

道の駅いわき・ら・ら・ミュウ 2階 研修室

### 3. 議事

(1) 開会

(2) 説明・協議事項

□ はじめに

1) 交通・駐車場対策

2) 津波避難対策

3) 今回の協議会のまとめ

(3) 閉会

### 4. 配布資料

資料1 第3回協議会資料

## 5. 議事内容

### □ はじめに

- 事務局より第3回協議会資料の「はじめに」について説明。

### 1) 交通・駐車場対策

#### 1.1 アクアマリンパーク周辺における交通対策の基本的な考え方

#### 1.2 駐車場整備（代替駐車場含む）の検討

- 事務局より第3回協議会資料の「1.1 アクアマリンパーク周辺における交通対策の基本的な考え方／1.2 駐車場整備（代替駐車場含む）の検討」について説明。

#### （小沼会長（小名浜まちづくり市民会議））

- 候補地として①をあげていただいている。震災後、まちづくり市民会議では、小名浜エリアへのルートとして鹿島街道を通行し、海岸エリアに入ってくるため、景観を検討する中では「海を感じられる町」というイメージでランドデザインしてきた。海側に立体駐車場のようないくつかの人口創造物があるのは、海を遮ってしまうため、今まで計画してきた景観としては抵抗があり、候補地①への立体駐車場設置については配慮いただきたいと考える。

#### （事務局）

- 景観においては十分な配慮をした上で検討する予定である。ただ、アクアマリンパーク周辺で駐車場を確保するための適地が少ない。駐車場整備の費用面を含め、資料に記載している通り、低未利用地の駐車場活用の可能性を探りながら、最も良い適地を検討していく。
- スタジアム計画の意匠設計と併せて、海を感じられるといった小名浜エリアの良さを消さないように考えていきたい。

#### （齊藤副校長・教授（福島工業高等専門学校））・副会長

- エリア価値という考え方もあり、どのような立体駐車場にするかということにも関わってくるので、その辺りも含めて検討いただきたい。

#### （上林教授（日本女子体育大学））・会長

- 景観の配慮は必須と考えている。立体駐車場というと何層にも高さを上げた建物というイメージがあり、景観を壊すものになってしまうが、全国の事例を参考にしながら小名浜の景観として適切な立体駐車場はどのようなものか検討していけると良い。例えば、福岡県の「ぐりんぐりん」という施設があり、駐車場ではないが、植物をまとった建物の事例があるため、景観に溶け込むようなものとする事は可能である。

#### 1.3 代替交通手段導入の検討

- 事務局より第3回協議会資料の「1.3 代替交通手段導入の検討」について説明。

#### （上林教授（日本女子体育大学））・会長

- ナイター試合の帰宅時間帯に路線バスの運行がないが、その代替として夜にシェアサイクルで帰るのは厳しい。また、そういった状況の中でシェアサイクル導入のために泉駅までの歩道の再整備を行っていくこと等を検討することも難しいと考える。
- 臨海鉄道の検討条件として、1 時間で捌くことを前提で検討しているが、隔地駐車場の P&R で整理している条件の「試合後にアクアマリンパーク周辺に滞在してもらうこと」を前提にしても良いのではないか。
- 福島臨海鉄道の旅客化に関しては臨海鉄道と相談しているか。

(事務局)

- 臨海鉄道と意見交換して進めている。

(上林教授 (日本女子体育大学))・会長

- 個人的な意見として、臨海鉄道にポジティブな印象を持っており、臨海鉄道に対しては良い意見もいただいている。
- 整備コストの面等からも福島臨海鉄道単独で実施していくことは厳しいため、県や市と一緒に進めていくことが大事だと考える。
- いわき SC ではクラウドファンディングで全国の支援を募っている。鉄道にも全国にファンがいるので、そういった支援も募りながらやっていくと良いと思う。

(松尾客員教授 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター))

- 交通駐車場対策を検討する上で、スタジアムの規模の上限は 10,000 席という理解で良いか。
- いわき FC のようなクラブのサポーターは小中学生のような子どもも多い。親と一緒に大人と車で来るし、サッカークラブ等の団体で来る場合もバス等で来るが、サッカー観戦であれば子どもだけで来ることもあるのではないか。子どもたちだけで来られるような交通手段と対応していくが必要になると思う。
- 現在のいわき FC の試合において、子どもの割合はどのくらいか。
- 泉駅からのアクアマリンパークのエリアまで徒歩で向かうのは難しい。さらに、JR 常磐線は 1 時間に 1,2 本となっており、サッカー観戦後のピーク時の退場者を捌くには限界があると思うので、電車の運行間隔については、JR 側との調整が必要となる。小名浜エリアに人を呼び込むのであれば、行き帰りの公共交通機関を確保するために、交通ネットワークをきちんと検討していくことが重要。

(上林教授 (日本女子体育大学))・会長

- スタジアム構想を検討する中でも子どもたちに焦点を充てた視点をいわき FC でも持っているので、重要な視点だと考える。

(大倉代表取締役 (株いわきスポーツクラブ))

- 新スタジアムについては、収容人数 8,000~10,000 人で検討中である。

- 家族連れについては、他のクラブと比較しても多い傾向にある。子どもの観客数については、昨年の来場者レポートより、0～15歳が5.9%で、260名程度（平均来場者4,375名）。16～22歳は3.0%となっている。

（松尾客員教授（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター））

- バス、JRで来る方はいわき市からだけではなく、茨城県から来る方もいるため、シャトルバスは必須で、その他にもJRとの調整等の検討すべきことはあると思う。

（上林教授（日本女子体育大学））・会長

- 子どもたちの視点は成長戦略でも重要と考える。子どもたちが親とだけでなく友達とも来られるようなスタジアムとすることは、小名浜のファンを作ることにもつながるだけでなく、交通ネットワークとして重要である。
- 泉駅からアクアマリンパークまでは徒歩で1時間弱のため、徒歩での移動は難しいと思う。既存の公共交通との調整、最適化を図ることが大事。

（齊藤副校長・教授（福島工業高等専門学校））・副会長

- ナイター試合はアウェイの方もいらっしゃる。現在のハワイアンズスタジアムの場合は、湯本駅まで徒歩で行き、湯本駅からいわき駅まで電車で移動して、いわき駅周辺のビジネスホテルに泊まっている。小名浜エリア・泉駅周辺には十分な宿泊施設はないため、宿泊場所も見込んだ検討をいただきたい。

（上林教授（日本女子体育大学））・会長

- 福島臨海鉄道の扱い方として、現状は利用方法や交通の利用率から考えていただいているが、新たな観光資源としての活用も考えられる。JR新山口駅では定期的にSLのような観光列車を走行させている事例もあり、福島臨海鉄道のディーラー車両は人気がある認識もあるので、観光資源として十分活用可能と考える。

#### 1.4 交通量調査の結果概要

#### 1.5 交通ネットワークの課題と解決方策

- 事務局より第3回協議会資料の「1.4 交通量調査の結果概要／1.5 交通ネットワークの課題と解決方策」について説明。

（齊藤副校長・教授（福島工業高等専門学校））・副会長

- 交通処理において、机上検討の数値上は問題ないとのことだが、利用者目線で鹿島街道は休日昼間や夕方は混んでいる印象。サッカー試合時は、昼と帰りのピークが重なるため、市民には丁寧な説明が必要と考える。
- 試合時は鹿島街道ではなく小名浜小野線の方に交通を誘導して、交通分散を促す対策も必要である。
- アクアマリンパークに向かう道には生活道路等もあり、サッカー観戦者に裏道として利用

されると周辺住民の生活に支障が出るため、交通誘導に関してはきちんと検討していく必要がある。

**(柴山准教授（東北大学災害科学国際研究所）)**

- 鹿島街道は道路として走りづらい感覚がある。中央分離帯がなく、視界が開けているのでスピードが出やすく、様々なところに注意を払いながら運転する必要がある。いい道路のはずだが、結構混雑するイメージがある。

**(中村教授（日本大学理工学部土木工学科）)**

- P32 では今回の資料上、来場時の増加分 850 台を上乗せした整理をされている。退場時は来場時のピークの 2 倍以上の人が一気に移動することになるので、退場時の考え方を聞きたい。駐車場の形態はこれから検討していくことになると思うが、駐車場のゲートであれば一定の間隔で退場していくような形になると思うので、大きな混雑にはつながらないとは考えているが、交通面での検討方針について確認したい。
- 試合時の来退場については、ピーク率を下げることで混雑を避けることになると思う。ナイターはお店も閉店する時間となるため難しいが、デーゲーム時はアクアマリンパークに滞在してもらうような取り組みを地域で検討していくことが大事。
- シャトルバスについては専用レーン等の優先的な交通運用も考えていくことが重要と考える。交通管理者・道路管理者と一緒に検討いただきたい。

**(事務局)**

- 今回の検討においては、交通量調査結果より把握した休日のアクアマリンパークのピークとなる時間として 13 時台で検証を行ったため、来場時の交通で検証した。ただ、一気に退場する帰りの時間での検証も必要と考えている。試合開始時間の設定等、時間帯によって交通状況が異なるため、何時台での検討を行うか含めて検討したい。

**(鈴木理事（小名浜港整備促進期成同盟会）)**

- 交通量調査結果として、10 月の 3 連休中日のデータで整理して、混雑度 1.0 以下と示されているが、試合がある日の状況について検証する上で、混雑する時期においても問題がないと言えるのか、10 月の 3 連休中日のデータでは不安を感じる。
- 花火大会時の交通量レベルを再現して検討する等の混雑している状況での検討をしなくて良いかという懸念を持っている。
- いわき市規模のスタジアムにおいて、サッカーや野球の試合時の交通混雑に対して、現状で課題や対策を取られている事例はあるか。参考として、運用後の課題をイメージして、いわき市での課題や対策について検討いただきたい。

**(事務局)**

- 10 月に実施した交通量調査を基に、道路交通の容量として計算上は問題ないということで検討した結果となっている。

- 今後は数値上 1.0 を超えていないので混雑していないということではなく、実体として委員の方や住民の方のご意見を踏まえて、事例等も入れて整理してお示しできるようにしたい。

(代理 田中氏 (福島県小名浜港利用促進協議会))

- 平常時は問題ないという結果となっているが、周辺道路で事故が起きると港湾物流に影響がでる。小名浜エリアへ来訪される周辺道路に不慣れな方への案内の工夫や、駐車場の予約制等の検討含め、対応をお願いしたい。

(上林教授 (日本女子体育大学))・会長

- 道路の混雑状況について、混雑度の数値のみで見えてはいけない。周辺の道路においては、混雑度が低いため、逆にリスクがあると考えている。道路が広く直線的な道路のためスピードが出てしまう。小名浜道路の開通で東京方面のアクセスが良くなったのはメリットと考えるが、注意喚起等の対策を講じないと、スピードを出すような人たちが多く走行し、事故リスクが高まる。事故に関する KPI を設定する必要があるかもしれない。
- 中村先生の話の中でシャトルバス専用レーンの設置についての話があったが、本エリアにおいては、物流の優先レーンを作っても良いかもしれない。物流を優先して、スムーズな輸送ができるようにすることについては検討しても良いと思う。

## 2) 津波避難対策

(松尾客員教授 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター))

- 前回は指摘したが、現在の検討においては、ふ頭のエリアのみでの検討となっているが、小名浜港エリアの津波防災として命を守るためにどうするかを検討することが重要。
- 実際の災害をイメージすると、茨城県沖での地震が発生した場合、28 分で津波がくる想定。地震発生地がわかるのは地震発生後 1~2 分程度で、津波警報は 3 分程度で出るが、小名浜港への津波到達時間等の影響はすぐわからないため、現場では今いる場所から、避難する場所をアナウンスすることになると思う。そのため、土日の昼間の人が多く集まる時間に地震が起きた場合、小名浜港エリア全体でどのような避難をするかという計画を立てないと混乱を招くことになる。小名浜港の一部エリアで検討してもあまり意味がない。
- 津波警報が出た場合、スタジアムの観客は待機することになると思う。スタジアム外の人々が安全な場所へ避難する際には徒歩避難となるが、全員が基本徒歩避難というのは難しいと考えている。
- R7/7/30 のカムチャツカ半島の津波発生時、茨城県~福島県まで国道 6 号は通行止めとなり、道路利用が制限された。津波発生時の対策として、道路管理者・交通管理者の判断で道路の通行止めを行うため、道路が通行止めとなった場合の避難について、福島県で検討を進めている。福島県の検討と連携して、小名浜エリアでも避難をどうするか考えていくことが大事。
- 津波警報が出た際には、安全と判断されるまで滞在してもらおう環境整備 (スタジアム・立体駐車場) が必要になる。小名浜港全体での計画を今後検討して行くことが必要。

- 協議会においては小名浜港エリアに関わる事業者や交通管理者が参画しているので、エリア防災について考える上で、災害発生時にどのように対応するかをそれぞれの役割で話し合う協議会とすべき。

(事務局)

- 県の避難計画や市の避難計画を考慮して検討していきたい。みんなが安全に避難できる座組を考えていきたい。

(柴山准教授(東北大学災害科学国際研究所))

- 松尾先生のおっしゃるとおり。
- 今回は現状として避難が間に合わないということを把握したことが大きい。健常者は走ると間に合うかもしれないが、道路状況等の環境影響によっては避難が難しくなることもあるので、要支援者は間に合わないということを把握したということに理解した。避難計画については、改めて検討していきたい。

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 阪神淡路大震災の際はあまり普及していなかった防災リテラシーの考え方が、少しずつ普及してきている。阪神淡路大震災の際は、本来、支援が必要で守られるべき人が支援を受けられない状況となってしまった。災害発生時に本来支援が必要な人が支援を受けられないという状況を生まないように検討を進めていただきたい。

3) 今回の協議会のまとめ

(上林教授(日本女子体育大学))・会長

- 次回が年度内最後の協議会となる。
- 今回の協議会においては現状把握の結果の報告となっている。実態とのずれや課題解決には直結しないところがあるので、課題解決に向けてどうしていくかを検討していくことが重要。次年度以降に向けては、今年度のような大人数の場で詳細の内容を議論していくことは難しいので、分科会といった形等で今後も議論をしていけると良いと考えている。引き続きよろしくお願ひしたい。

(事務局)

- 次回は、来年度の方針含めて示したい。資料の見せ方は、工夫して進めたい。次回は3月下旬を想定している。

以上